



墜落したB-29の様子

記憶のなかの戦争 平和をつなぐために

——平和を願う喜多見さんが語る、戦争の記憶

戦後80年となるいま、改めて「戦争」と「平和」について考えてみませんか。
箕輪在住の喜多見徳治さん(89歳)に、少年期に見た戦争の光景と、
平和への願いを語っていただきました。

喜多見 徳治さん
(箕輪)

「戦争中のこと、印象に残っている出来事はありますか？」

やはり、小学3年の冬に起きた呑龍の墜落事故です。霧の濃い朝のことで、新聞配達をしていた従兄弟に「飛行機が落ちたらしい。見に行こう」と言われて見に行ったのです。

搭乗員のひとりが機体から投げ出されていました。全身焼けていて、袖口だけ白く焼け残っていたのを覚えています。他にも記憶に残っているのは、俄田に墜落したアメリカのB-29がものすごく大きかったことです。子どもが立つて中を歩けるくらい大きくて、全長は30メートルくらいあるというのを後に知りました。また、機体には釣り道具やゴムボートみたいな物が積んであったそうで、「アメリカは人間を大事にしている、不時着しても人を助けるために準備していたんだな」と少し成長してから思い至りました。日本では「捕虜になるな」って手榴弾を渡されていたから、考え方が全然違っていったんですね。

「当時の暮らしや学校の様子はどうでしたか？」

まともに勉強をした記憶はないです。戦争のことばかり考えていました。小学校には軍隊が駐屯していて、隊員は「タコツボ」という防空壕



第237号

編集・発行

〒292-0451 ☎35-2488

君津市末吉128

小櫃公民館

小櫃の人口

男 2,215人(-6)

女 2,185人(-4)

計 4,400人(-10)

世帯数 2,028戸(-3)

(令和7年7月末(4月末比較))

小櫃まるごと博物館

「小櫃学」小櫃の戦跡

今から80年前の戦時下において小櫃地域の様子はどうか、当時のを知る人は少なくなってきたと思います。それを知る手がかりとして、令和6年11月30日に実施した公民館事業「小櫃学」戦跡の地をめぐる、平和を考える」の講義資料と現地見学の様子を動画としてまとめました。

小学校での軍事講演会や白山神社での武運長久祈願祭、出征軍人の見送りや戦死した兵士の村葬と、次第に戦争の足音が庶民の暮らしに近づいてくる様子が資料からわかります。



小櫃小学校下に建てられた忠霊塔



日時 令和7年11月1日(土)

13時

会場 小櫃公民館 ロビー
特別企画「戦後80年のいま、平和を考える」

戦後80年の節目にあたり、地域の戦跡や当時の証言を通して、どのように国民が戦争に巻き込まれていったのか知り、平和について考える機会を設けます。あなたも一緒に、

る本土空襲が本格化し、東京本所区(現墨田区)の児童が薬王院(西原)と萬福寺(戸崎)に集団疎開してきました。

空襲の危険が少なかったため疎開先として選ばれた当地でしたが、戦闘機の墜落や爆弾投下、機銃掃射の被害もありました。昭和19年10月1日、沖繩に向かっていた日本陸軍爆撃機「呑龍」が濃霧により遭難墜落。昭和19年11月27日、空襲を終えた米軍機が機体を軽くするため西原に爆弾5発を投下。昭和20年2月15日、日本軍機との空中戦のなか艦載機グラマンによる銃撃で萬福寺を含めた戸崎地先で被害。萬福寺には当時集団疎開の学童もいましたが奇跡的に無事でした。昭和20年4月15日、アメリカ軍爆撃機B-29が墜落。搭乗員の遺体は終戦まで小学校裏山の共有林に埋葬されました。

▼地域行事の撮影や取材にご協力いただける方・団体は小櫃公民館までご連絡ください。

TEL 35-2488
動画は公民館ロビーでの上映のほか、動画配信でもご覧いただけます！



思いを巡らせてみませんか。
■資料提供のお願い

戦時中や終戦直後の写真、道具、生活の品など、ご自宅に保管されている資料がありましたら、ぜひご提供をお願いします。集まった資料は文化祭で展示をする予定です。ご協力いただける方は、小櫃公民館(担当・會澤)までご連絡ください。



小櫃の「これから」を、「一緒に考えてみませんか？」

地域づくり協議会では、毎回さまざまな視点から意見が交わされ、少しずつ「小櫃のこれから」が見え始めています。今回は、実際に参加している方の声をご紹介します！

○齊藤 洋成さん(三田)

正直なところ、最初は参加する気はありませんでしたが、小櫃の先輩から声をかけてもらったのがきっかけで参加しています。



グループで意見を出し合う皆さん

小櫃の良さを活かしながら、これからの課題を見据えて、変えるべきところは勇気を持って変える。守るべきものは大切に守る。新しい時代に合った形で発展していければと思います。みんなが小櫃を育んでいきましょう。

○小櫃の未来を語ろう！
少しでも興味のある方は、いつからでもご参加いただけます。お気軽に公民館までご連絡ください。



■お問合せ
35-2488

小櫃カニぎやう2日間! 第51回小櫃地区文化祭を開催します

今年の小櫃地区文化祭は、例年より1週間遅い11月1日(土)・2日(日)に開催します!

作品展示やステージ発表、模擬店などに加え、2日(日)には、「おびつのORAGAICHI(おらが市)」も実施予定です。

◆小櫃地区文化祭

日時: 11月1日(土)・2日(日)
会場: 小櫃公民館

◆特別企画「おらが市」

日時: 11月2日(日)
場所: 小櫃公民館 駐車場
内容: 手づくり品の販売、ワークショップなど



上総小櫃地区 20歳のつどいを 開催します!

新たな門出を祝う節目として、20歳を迎えられるみなさんの「つどい」を開催します。

今年度からは、学校再編により、上総地区と小櫃地区の合同開催となります。

懐かしい友人や先生との再会の場として、ぜひご参加ください。

◆日時 令和8年1月11日(日)
14:00~(受付13:30~)

◆会場 上総小櫃中学校

▼ご案内について

ご本人宛ての案内状は、12月頃に発送予定です。出欠のご連絡方法は、案内状にてお知らせします。

なお、現在上総地区または小櫃地区以外に住居票がある方は、QRコードよりお申し込みください。



小櫃の動き

今年も各地域で夏のイベントが開催され、子どもたちの笑顔が輝いていました。取材した行事の様子をお届けします！

こどもまつり&七夕長谷川
ホテル谷フェスタ
6月27日(土)

青年会の解散により、長年親しまれてきた「虫送り」は昨年で最後となりましたが、「子どもたちに楽しい思い出をつくってあげたい」という自治会長や地域の皆さんの思いから、代替事業となる「こどもまつり」が開催されました。

当日は、1歳から小学生までの子どもたちと保護者が集まり、輪投げや的当てゲーム、ボッチャなどで楽しい時間を過ごしました。参加した小学生は「全部楽しかったけど、ボッチャがいちばん楽しかった！」と笑顔で話してくれました。

こどもまつりの後は「七夕長谷川ホテル谷フェスタ2025」が開催されました。市内外から255名が来場し、竹灯籠やホテルの鑑賞を楽しみました。

「はじめてホテルを見て、と



竹灯籠の「えがお」



みんなでボッチャ対戦！



でもきれいだっただ「ホテルがたぐさん見られて感動しました」と、参加者アンケートには喜びの声が寄せられました。

戸崎夕涼み会 7月19日(土)

開式のあいさつで、「43回目にして初めて、仲間の力を借りて本格的な舞台を作ったんです」と語ったのは、実行委員長の伊藤貴寛さん。

会場にはビンゴや花火、しゃぼん玉&マジックショー、金魚すくいなど、楽しい催しが盛りだくさん！

たくさん子どもたちが笑顔でしゃがみ声が会場いっぱい広がっていました。

「子どもたちがにぎやかに過ごすのが一番！」と話す大人たちの表情も、とても輝いていました。地域に笑顔があふれた、素敵な夏のひとときでした。



夜空に輝くシャボン玉のショー

賀恵夕涼み会 7月26日(土)

地域の子どもたちからは、「腹話術が楽しかった」「かき氷がおいしくて、たくさん食べたい」「スーパースクイが面白かった！」など、笑顔あふれる声が聞かれました。

「みんなで盛り上げよう！賀恵夕涼み会」というキャッチフレーズのもと、自治会主催で開催されたこのお

祭り。

自治会長の飯塚幸夫さんは「たくさん食べて、飲んで、みんなで楽しい時間を過ごしてほしい」と語ってくれました。その言葉のとおり、地域のみんなが笑顔で過ごす、にぎやかなひとときとなりました。

夢中でチャレンジ！
お菓子釣り三田サマーフェス
7月26日(土)

ラムネ飲み競走では、子どもも大人も大興奮！子どもたちは、「みんなで一緒にいたことが楽しかった！」「たくさん食べ物を食べた！」と、楽しそうに話してくれました。

大人の皆さんからも、「こんなに人が集まったのは初めて」「3世代が交流できてうれしい」「子どもが喜ぶ食べ物が多くて楽しんでいた」「大人同士でゆっくりおしゃべりできた」と、たくさん喜びの声が寄せられました。おいしい食べ物も次々と完売し、笑顔あふれるフェスとなりました。



冷たいラムネで真剣勝負！

上新田納涼祭 7月27日(日)

「スイカ割り、難しかったけど割れたのが嬉しかった！」輪投げや射的、かき氷。子



にぎやかなあそんべ食堂

地域食堂
おびつ あそんべ
食堂への想い
実行委員インタビュー

地域食堂「おびつ あそんべ食堂」は、今年5月のお試し開催を皮切りに、毎月一回、にぎやかに開催しています。

運営を支えているのは、地域の大人や中高生のボランティア、そして実行委員の皆さん。

立ち上げから関わった3人の実行委員、長谷川和美さん・飯田陽子さん・吉田さやかさんにお話を伺いました。

おびつ あそんべ食堂を始めようと思ったきっかけ

長谷川「小櫃には子どもが安心して遊べる場所が少なく、公民館を活用したいと思っていました。また、お母さん同士が気軽に話せる場所をつくりたいという思いもありました。」

吉田「子どもたちの居場所が少なくことや、子育て世代と地域の交流が減っていることが気になっていました。『地域のみんなが地域のためにできること』を」と想い、子どもから高齢者までが共に活躍し、集える場所をつくりたいと思っていました。

君津市内の子ども食堂を見学して感じた、温かい雰囲気や心を動かされ、「小櫃でもこんな場所

所を作りたい」と一歩ずつ進むことができました。

実際に始めてみての感想

飯田「予想以上に多くの方が来てくださり、うれしいです。中高生ボランティアもたくさん参加してくれていますが、役割分担がうまくいかない時があるのを改善したいです。」

長谷川「準備は大変ですが、子どもたちの笑顔に元気をもらっています。」

吉田「ありがたう」「楽しかった」「おいしかった」といった言葉の一つひとつが本心にうれしいです。地域の方々が食料を寄付してくださることも励みになって、みんなで作り上げていく地域食堂の存在の

調理に取り組むボランティアの皆さん

意味を実感しています。これから、どんな場所にしたいですか？

飯田「地域に根付き、長く続く食堂にしていきたいです。」

吉田「子どもから高齢者まで、誰もがホッとできる居場所に、学習支援や団体との交流など、つながりや学びが広がる場にしていきたいです。」

みなさんへメッセージ

地域食堂を通して、誰もが「人じゃない」と感じられる場所でありたいと思っています。食事を楽しまただけでなく、気軽に相談したり、支え合ったりできる場に。地域の皆さんも一緒にこの場所を育てていきましょう。今後も継続して開催していきますので、気軽に遊びに来ていただけるとうれしいです。ボランティアや食料寄付のご協力もよろしく願います！

次の開催日や、おびつあそんべ食堂の詳細はこちらからご覧ください！



ひんやり冷たいかき氷タイム

味楽園 おびつ店
オープン
オリジナル

地元の新鮮な野菜や特産品が並び、J A きみつ 味楽園 おびつ店が、7月にリニューアルオープンしました。お店のこだわりや、これからの取り組みについて店長の藤村あいさんにお話を伺いました。

「リニューアルではどんな点を工夫しましたか？また、その反応はいかがですか？」

床の傾斜をなくし、レイアウトも変更しました。お客様からは、「見やすくなった」「買いやすくなった」という声をたくさんいただいています。店長さんご自身が、大切にしている想いや今後やってみたいことを教えてください。

直売所なので、地元の生産者の商品を増やすことが一番の目標ですね。生産者の高齢



新鮮な野菜が並ぶ店内

化や後継者不足といった課題もあります。それでも地元の新鮮な野菜をたくさん並べたいです。

また、ただ売るだけではなく、お客様に楽しんでもらえるイベントも開催していきたいと思っています。イベントだけでも来てもらえたら嬉しいし、そこから「また来たい」と思ってもらいたいですね。小櫃の水がきれいな場所なので、いつかは、水を使いたいイベントもしてみたいと考えています。

編集後記

今号では、喜多見さんの戦争体験を紹介しました。生々しいお話と「仲良く生きよう」と前向きに語られる姿が心に残りました。

裏面では地区のお祭り特集。子どもたちの笑顔と、それを支える地域の皆さんの力に毎年感動します。

実感しづらいですが、世界では今も戦争が続いています。子どもたちの笑顔がいつまでも続き、戦争のない未来となりますように。(愛)



卵コーナーは地元の卵がずらり。「新鮮だから生で食べるのがおすすめ」とスタッフの佐野さん

